NJ素流協News

令和５年７月10日
第222号

令和５年７月10日発行・発行所　ノースジャパン素材流通協同組合　〒020-0024 盛岡市菜園１丁目3-6（農林会館５階）
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / http://www.soryukyo.or.jp/index.html

特集１

ノースジャパン素材流通協同組合 令和５年度地区別組合員会議開催

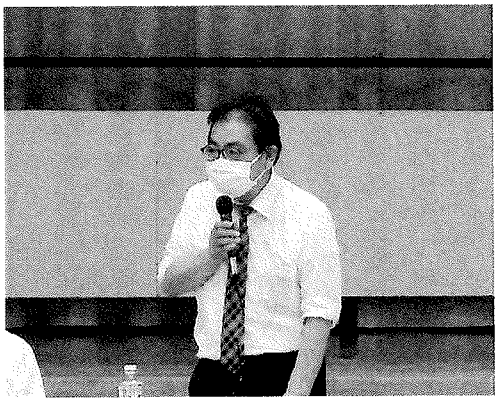
ＮＪ素流協は令和５年度地区別組合員会議を開催した（各会場の出席者数は表のとおり）。

19日の八幡平会場の開会にあたり、鈴木理事長が次のとおり挨拶した。

会　場	出席組合員数	出席人数
6/19 八幡平市	11	15
6/21 大崎市	11	13
6/27 住田町	18	24
6/28 七戸町	17	23
7/4 大館市	6	7
7/5 久慈市	15	17
計	78	99

表　各会場の組合員等出席者数

「今年度も、当組合の総会そして20周年記念式典、全国植樹祭といった大きな行事が無事終了しました。さて、現在、各工場とも厳しい状況が続いていますが、当組合は各県をまたいで広域に需給調整を行うというところが特色です。



鈴木理事長挨拶（八幡平会場）

皆様のご要望にお応えできるように職員一同、一生懸命頑張ってまいります。また、組合員の皆様には、伐った丸太の納入だけでなく、会社の経営上の問題や、工場も併設していると、「こんな特別な材料が欲しい」って言われたんだけど…ということもあると思います。そういったことのために、当組合のホームページに「悩みごと相談室」を設置しました。悩み事がありましたらぜひ当組合にご連絡いただくようお願い申し上げます。」

続いて、議事に移った。主な内容は次のとおり。

１．話題提供

「ウッドショック・逆向きウッドショック　皆んなが知りたい今と今後の木材市況Ｑ＆Ａ」

▼昨年度の予想の結果は!?

昨年、令和４年度の素材生産のポイントをこの組合員会議でお話した。その中で、

●木材製品価格、丸太価格ともに、ウッドショック前の水準には下がらない

●カラマツ需要・単価は今年度いっぱい高値水準

↓ということだが予想は当たり

●広葉樹用材の輸入は厳しく、国産丸太へ切り替え要望強まる

↓これは大当たり

●炭素固定効果、近年の豪雨災害多発から、スギ・カラマツ小径木の需要は堅調。３・００ｍニーズ高い

●ラミナ需要・母屋角需要から14～16cmは需要減らない

↓これらも当たり

●スギ大径材（目粗）も２・５０ｍ採材なら上限なし

↓これについては、アメリカの景気が下がり、輸出が伸び悩んだということでこれはハズレ

●80（70）年生以上のスギ・アカマツは希少

↓当たり。未だに非常に評価が高いところだ

●ＰＫＳ代替の広葉樹パルプ、カラマツ・アカマツバイオマス材需要拡大

↓当たり。まさにその通りになった。バイオマス工場での広葉樹チップを高値で買う動きが出てきた

●林道脇残材の活用始まる

●脱コロナで薪材需要復活

…など当たりは多かったと思う。最後に、大当たりだったものは

●プーチンショックは、ヨーロッパブナにも影響。ブナ材は貴重

↓未だにブナが足りないとの声があちこちから聞こえる。

▼最新データを読み解く!!

製材月別輸入量のデータを見ると、去年は、その前の年を上回るかなりの量の製材が輸入された。しかし、あまりにも在庫が増えたために、今年１～４月累計の製材輸入量は、去年と比較して43％減っている。次に、集成材の輸入量のデータを見ると去年は８月ころまで膨大に輸入している。それ以降は前年よりマイナスに転じ、今年１～４月累計の集成材輸入量は、去年と比較して約50％減の勢いだ。

製材の輸入平均単価は、４万円ほどだったものが倍以上にはねあがった。現在は下がってきているが、コロナ前の水準よりは若干高い。とりわけ、構造用集成材の輸入平均単価もピーク時よりも下がっている。製品単価がここまで下がると、丸太の単価も、一番高かった時より前の水準には戻らないにしても、価格を下げないともたないという状況になってきている。

次は、東北地区で影響が大きい合板のデータだ。昨年度の春先～夏までは輸入量が増加した。その後は次第に輸入量が落ちてきた。輸入平均単価は製材よりは落ち込みはない。この理由については後ほど説明する。

最後に、木材の製品単価が上がるか下がるかの目安として知られている、東京湾の製材品在庫のデータを見ていただくと、コロナ前までは適正水準と言われたところを推移していた。コロナが発生しウッドショックが起きると、突然、港に在庫がなくなった。これが価格暴騰を招く。この後、皆さん膨大な輸入を始め、その結果、去年の秋口、適正在庫からはるかに多くなっている。ここから、価格が下がり始める↓工場の減産が始まるという流れになっている。

現在はどうかと言うと、２月ころからやっと適正在庫量に近づき、減少している。これが６月、７月くらいまで更に減少が続くかどうかによって今後の動きが変わってくると思う。

▼Ｑ　何故合板工場で大減産が続いているのか？

Ａ　業界での語りぐさの、日本合板工業組合（日合連）対日本合板商業組合（日合商）との最後の戦い

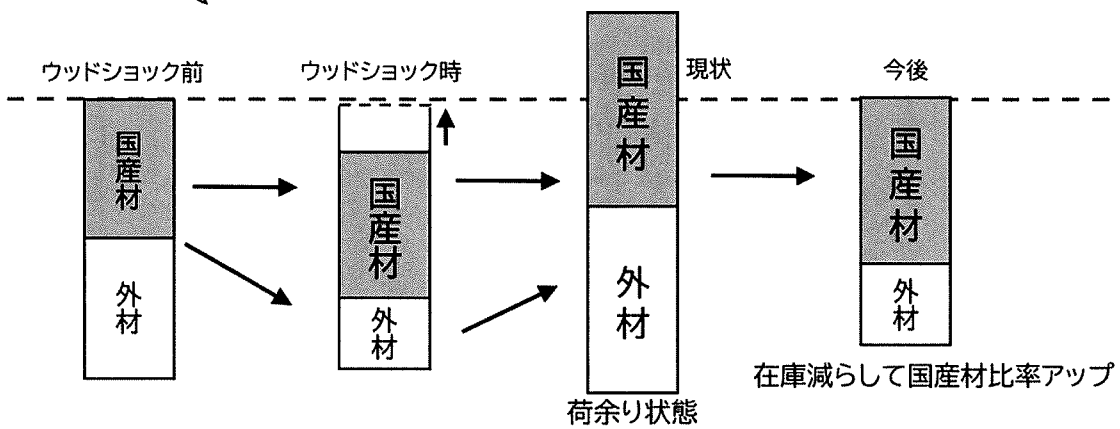
かつて、合板は価格乱高下の相場商売の代表だった。その時の日合連は、全国に何百も合板工場があったが、工場はしだいに廃業し、数は減ったが、大手グループのシェア争いもありタッグが組めず、日合商に主導権を握られてきた…というのが乱高下していた時代のことだ。ウッドショックとウクライナ問題で３×６合板が９００円から２千円に上がった。この単価を守りたい合板工場が阿吽の呼吸で供給調整を始めた点がポイントだ。一方、合板を扱う問屋は高値仕入れ材を処分しないと利益が出ないということで、在庫を減らして買い控えをしている状況だ。双方我慢比べをしているが限界が近い…というのが現状だと思う。

▼Ｑ　何故集成材工場の丸太仕入れ単価は下落しているのか？

Ａ　欧州産ＷＷ・ＲＷ集成材が、一斉に発注をかけたが、いっこう

に日本に到着せず、国産材集成材に代替発注をかけて、残業やシフトを増やして増産した。ここに、到着が遅れていた外国産集成材が一斉に日本に到着。在庫急増で処分に追われ、値下げに走る。国産材集成材製品も対抗して値下げする。結果、丸太の価格も引き下げとなる。ただし、国産材製品化の流れは右肩上がりということで、必要国産材丸太量は増加し、商社系輸入量は減少へ…という流れになるだろう。集成材工場自体は、稼働は通常にしているが、製品単価が下がったので、丸太の価格は大きく下がってきているのが現状だ。

ウッドショックが起き、外材が急激に入ってこなくなり、国産材の量を増やそうとした。その結果、国産材の供給量が増え、なおかつ外材は元々以上に輸入してしまった…ということで、適正在庫（下図点線ライン）をはるかに超えている。今後は、この在庫を減らして国産材比率をアップしていく流れになると予測。



▼Ｑ　原料材高値続きの理由は？

Ａ　以下の理由が考えられる

●何といっても、Ａ材・Ｂ材の納入制限により、伐採量が落ちるとＣ材の出材は必然的に減少。

●円安の影響もあり、製紙用輸入チップ材は広葉樹・針葉樹とも日本の港湾着値が上昇。価格差から、国産材チップ材へ要望強まる。

●円安・原油高騰もあり、助燃材ＰＫＳの価格も高騰し、含水率が低い国産広葉樹、カラマツバイオマス用チップのニーズが高まる。

●コロナ感染拡大時、巣ごもり需要で菌床用キノコのオガ粉需要が通年化して、需要が安定化。

●製材工場の製材品が売れないと、原木消費量が落ちるのは必然。背板チップの納入量が減少。

●木質バイオマス発電所の新増設及び計画が相次ぎ、隣接エリアでは取り合いとなっている。

●32円材の出材確率が高い国有林立木販売の予定価格高く、落札率が大幅低下。24円材の民有林山に入らざるをえず、32円材一層不足。

▼Ｑ　広葉樹が高い理由は？

Ａ　以下の理由が考えられる

●ロシアの丸太輸出関税付加

●北米・ロシアの山火事多発

●北米のワイン樽ブーム

●円安

●日本のフローリング等メーカーのナチュラル志向

●国有林（特に北海道）の過去の自然保護事案からの躊躇

●素材業者への樹種価格等の情報不足↑一番のポイント!!

●杉、カラマツ、アカマツ相場急騰による針葉樹伐採にシフト

▼Ｑ　スギ高齢級材不足の理由は？

Ａ　以下の理由が考えられる

●建具材主流だった最高級シトカスプルースのシアラスカの解散↑一番のポイント!!

●建具屋さんのスプルース高級材製品在庫切れ

●単価が下がり、吉野地方ヘリコプター集材が採算割れ

●かつての高値まだ知っている世代、大山持ち伐採動機生じず

●手伐り技量ある作業員高齢化・

減少

現在の高齢級スギ材の不足感はどこも高まっている。

▼令和５年度の素材生産のポイント

●夏以降は、徐々に需要回復し、秋以降、需要は元に戻る一番のポイントは、商社系も失敗を続けられない。３月決算で、年初から赤字を脱却しなければならない…という動きの影響が現れると予想。また、製品在庫減少状態や新工場の稼働、火災工場の復興が始まる点もポイント。

●官公庁の予算化の流れ変わらず。国予算認可→都道府県予算許可→市町村予算の許可。

結局、発注は盆明け以降、木材発注はその後！

●大径材対応工場増加。結果、小径木不足が加速。無除伐林分、初回間伐林分等は、意外にニーズは高まる

●円安収まらず、広葉樹は高値続く。円安でのインバウンド増加による旅行、飲食業のリニューアル、箱材等の需要回復も。

●災害の増加続く。災害復旧予算別立て。諫早湾干拓続く。加えて、ホームドア設置で運賃値上げ→カラマツ小径木・杭材のニーズ通年化

●原料材の不足状態続く。32円材不足で、Ｄ材利用も加速

●丸太単価は、新型コロナ前とウッドショックピークの真ん中位に落ちつくと予想

●２×４大手２社国産材率向上

●ＰＫＳ代替チップの需要拡大

●米マツ高値から、７尺、８尺、９尺、10尺の特注材注文が安定化

●全木集材での林道脇集中造材の導入が進むのでは

▼今後の注目事項

●クリーンウッド法の２年後本格施行

南洋材堅木についてはおそらく、アウトになると思われる。

●手形決済の廃止

●花粉症対策の本格化

●ロシアカラマツ単板の中国輸入

…が始まるのではないかと思ったが、先日、中国からの合板輸入が日本のＪＡＳ法違反で再び輸入停止になった。合板工場にも動きがあるのではないかと思う。

●岩手３工場をはじめ、秋田、山形、宮城のバイオマス工場新設

●ペーパーレスと脱プラ、紙利用のせめぎあい

●２０５０年カーボンニュートラルでの森林の評価は高まる

●ＨＷＰカーボンストックの政策の位置づけ

木造の建物を建てた時に、税制上の優遇をするかどうかという位置づけが今後の課題だ。

●外材主体商社系の国産材主体への方向転換

２、令和５年度事業計画

・令和５年度の共同販売計画量は表のとおり。

表　令和５年度共同販売計画量

区　分	計画量
合板用素材	240,000 ㎥
製材・集成材用素材・その他	175,000 ㎥
計	415,000 ㎥
バイオマス発電用素材	135,000 t

・東北森林管理局等委託販売業務において素材３万５０００㎥を取り扱う。

・再造林基金事業等、森林再生に関する事業に引き続き取り組む。

・組合員の林業技術の向上と経営改善を図るため、引き続き各種研修を行う。また、スマート林業に関する技術やインボイス制度への対応等の技術指導を行う。

・素材生産、森林整備、木材流通が抱える課題の解決に向け、「責任ある素材生産事業体認証（ＣＲＬ）」導入に向けた取り組み、青年部会活動の推進、原木トラック運送の効率化対策やその他組合員が要望する調査研究に引き続き取り組む。

・各種情報の提供、受託・協定等に関する事業に引き続き取り組む。

・「第73回全国植樹祭いわて２０２３」に関する事業として、ボランティア協力や、岩手県の森林・林業や観光等の展示ＰＲ、震災復興の情報発信、県産品の販売等を行う「おもてなし広場」に当組合ブースを出展し、当組合青年部会の事業紹介、県産材製

品・薪等のＰＲを行う。

３．令和５年度主要事業

ア．共同販売事業と木材需給動向

▼ブナの需要について

26cmよりも太いところは主に製材用で、家具や楽器などに使用される。偽心材があるものは、かつらむきを行い、使用できる部分は化粧単板用の長面で使い、偽心材の部分は化粧合板の中芯に利用すると余すことなく使える。次に、種駒用について、20～24cm（直材なら18cm上）は細いので、仕分けせずパルプに回しがちだが、直材で節が無ければ原木シイタケの植菌用の種駒として使用できるので、ぜひ仕分けして用材で販売をお願いしたい。最後に、低質材について、現場で樹種を混ぜて製紙用パルプにするのではなく、ブナだけで分けると、菌床シイタケ用として使用できるため、ぜひ仕分けをお願いしたい。

▼ホオ・シナノキについて

ホオの特徴的な曲がりは日本刀の鞘に適している。他にも、柔らかく、軽く、加工しやすいという特徴があるため。自動車部品等の最初の木型用、太鼓のバチ（材質が柔らかいため太鼓にかかる負担も少なくなる）等用途は様々だ

シナノキも、額縁、オルゴールの箱、寄木細工等用途は様々だ。ホオ、シナノキが欲しいと要望頂いた製材所では、製品用途が細かいものが多いため、多少の曲がりや節はＯＫ、長さも１・８ｍからＯＫ、径級も細いところ20cmからＯＫだった。通常の用材と比べて造材しやすいため、ホオやシナノキがある方はぜひ営業担当にご相談いただきたい。

▼林地残材の活用について

バイオマス材は引き合いが強く、価格も上がり、発電所では一定量のバイオマス材を確保することが難しい状況になっている。さらなるバイオマス発電所の新設も進んでいて、燃料不足が各地で見込まれている。

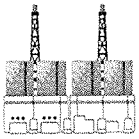
当組合ではこうした課題に取り組むため、伐採後に放置されていたＤ材（短コロ・末木枝条）の活用を検討しており、Ｄ材を活用したい方と、

～林地残材の活用の事例～

素材生産者

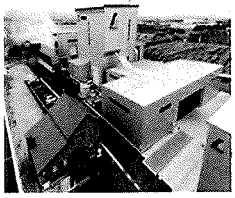
ノースジャパンの役割
素材生産者・活用したい方
マッチング

活用したい方



素材生産時に出材するD材
（丸太・末木枝条・短コロ）
を林道脇に集材する

活用したい方がD材を山土場で購入
林地にて移動式チッパー機を活用し
現地破砕をおこない、
チップ車に積み込み
林地から各バイオマス発電所へ納入



メリット

・造林作業のコストの削減
・造林が進むことで作業環境の安全化と効率化
・健全な森林環境サイクルの確保

メリット

・不足している原料材の確保
・現地破砕により輸送コストの削減

素材生産業者様とのマッチングを行って共同販売事業として、バイオマス発電所に納入することを目標としている。

内容について、伐採作業時に出るＤ材を、土場もしくはトラックが入ることができる林道脇に集積し、移動式チッパーで現地での破砕を行う。そしてバイオマス発電所へ運搬、納入する予定だ。

▼原木納入開始届について

①開始届様式を作成いただき、根拠書類と一緒に提出願います。

②伐採届について

●適合通知書…伐採期間の延長が必要な場合は、市町村での手続きをお願いします。

●適合通知書以外を提出する場合…伐採計画書の添付をお願いします。

③バイオマス材　**根拠：間伐材の場合は、伐採率が「材積伐採率35％以内」となっているか確認を！**

イ．森林再生に係る事業

・岩手県森林再生基金事業の令和４年度協力金総額は３２６０万円で、岩手県に関係する当組合員のうち98名が協力を行った。再造林助成金の交付額は約３６００万円で、前年比89・２％となった。

当組合は、青森県の「青い森づくり推進基金」に対しても再造林協力金の拠出を行っている。また当組合独自の再造林促進奨励事業については、全体で10haを計画している。

・組合員による再造林を促進するため、再造林経費の一部を助成する再造林促進奨励事業を引き続き行う。

ウ．技術指導と調査研究、情報提供に関する事業

・いわて林業アカデミー就業体験

研修生を採用する考えがあり、就業体験研修の受け入れに協力いただける事業体を随時募集する。

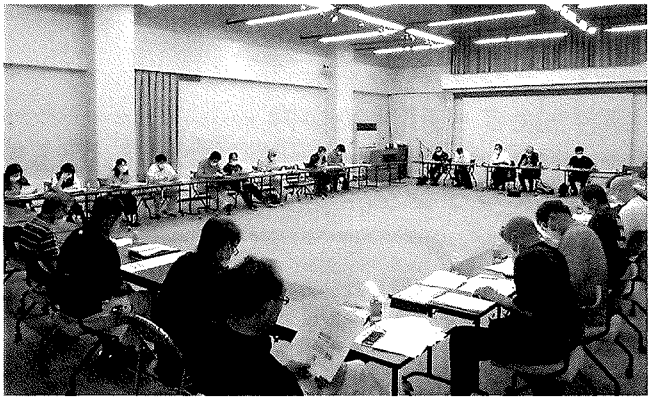
・林業用種子（カラマツ）の確保協力

カラマツ種子の不足に対応するため、カラマツ球果採取と種子の提供に引き続き取り組む。種子の採種期間は９月１日～中旬までと適期が短い。６月中旬頃から実がなるので、綺麗な緑色の球果があったら情報提供をお願いしたい。

・原木トラック運送効率化

東北森林管理局職員との合同現地検討会の実施や、視察研修を実施した。

令和５年度も、東北地区原木トラック運送協議会と連携し、素材生産現場から原木納入工場までより効率良くかつ安全に業務が行えるよう、要望陳情活動等継続的に行う。



組合員会議の様子（住田会場）

・漆採り原木を探しています

漆採り用の原木は、太さ20㎝程度ものが利用されている。20～30本まとまって生えていると、効率的な漆採りが可能。立木のままでの価格は約２千円／本とのこと。

造林して15年サイクルで３回収入が得られるのならば、スギよりも収益性が高い可能性も。ウルシは、肥沃かつ水はけの良い土地を好み、標高が高くなると生育が落ちるなど生育環境が限られるので、情報提供願いたい。

・伐採・搬出・再造林作業ガイドライン

令和４年６月27日に、伐採搬出・再造林ガイドライン全国連絡会議の設立総会と第５回伐採搬出・再造林ガイドラインサミット東京大会が開催された。

また、令和５年３月10日に「第６回伐採搬出・再造林ガイドラインサミット徳島大会」が開催され、森林資源の循環利用を支える取り組み、再造林の担い手対策、ガイドラインの遵守について意見交換を行った。

・意欲と能力のある林業事業体の認定状況

東北各県で公募と認定が進んでいる。国の補助が受けられる等のメリッ

トがあり、組合員の認定申請をサポートしていく。

・鳥獣害拡大防止のためのシカ等の出没情報の収集に関する取組み

シカの目撃情報の登録にご協力願います。シカ情報マップホームページにアクセスすると必要事項を入力可能。

・ＮＪ素流協ホームページに「悩みごと相談室」を開設！

素材に関すること、経営や会計税務など気軽にご相談ください。

・山火事予防について

「火入れ」・「野焼き」・「たき火」の際、許可や届け出をしていても、強風時（平均風速10ｍ／ｓ以上）及び乾燥時（実効湿度55％以下）は禁止。

・消費税インボイス制度

令和５年10月１日から「消費税インボイス制度」が開始。詳しくは、国税庁のサイト等ご参照ください。

・研修会等の実施

今年度既に計画している研修等

▼ＱＧＩＳ勉強会

▼森林・林業・環境機械展示実演会（茨城）

・クリーンウッド法改正について

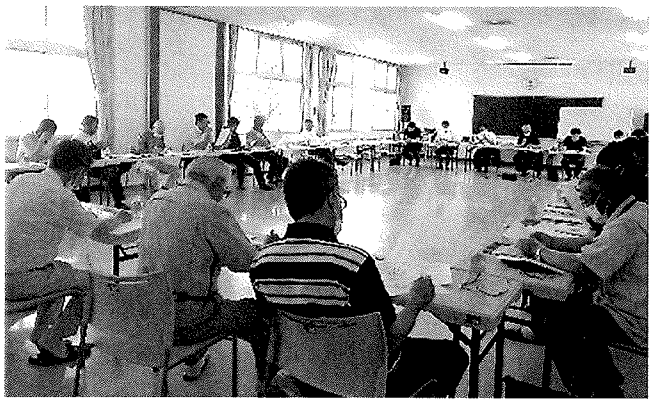
「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（通称「クリーンウッド法」）」が改正となり、２年以内に施行となる。

▼木材を初めに調達する第一種木材関連事業者に合法性の確認を義務化（これまでは努力義務）

↓工場等の規模の大小に関わらず合法性の確認が必要とされる。直接の販売先からも提出を求められる可能性大！

▼素材生産業者には、第一種木材関連事業者からの求めに応じて伐採届等の情報提供を義務化

↓伐採届等の提出は求められるつもりで！



組合員会議の様子（七戸会場）

・労働安全衛生について

厚生労働省の発表によると、令和４年度の岩手県の死亡者数、死傷者数は、若干減ってきているが、現場において安全衛生の取り組みを引き続きお願いしたい。

・軽油引取税の課税免除の特例措置

軽油引取税免除額は32・１円／ℓで、現行措置は令和６年３月末まで継続される。活用していない方は活用を!!周りに活用の呼びかけを!!

↓活用率が低いと特例措置の対象から除外されてしまいます。

・ＮＪ素流協　青年部会について

現在会員数は正会員25名、賛助会員13名で、新規会員を継続募集している。会員の知識・技術向上を図る研修や交流事業等のほか、今年は８月６日（日）に岩手県八幡平市で林業普及啓発イベント「第３回げんき森林（モリ）モリフェスティバル」を開催する。

特集２

第73回全国植樹祭いわて２０２３が開催されました

～おもてなし広場で県産材をＰＲ！～

６月４日（日）、陸前高田市高田松原津波復興祈念公園で「第73回全国植樹祭いわて２０２３」が開催されました。ＮＪ素流協から、５組合員19名及び素流協職員５名の計24名が実施本部員ボランティアに協力し、弁当配布や植樹指導を行いました。

以下、記念式典と、おもてなし広場（展示コーナー）の様子を紹介します。

【記念式典】

プロローグでは、陸前高田市出身の俳優　村上弘明氏を案内役に迎え、岩手県出身の声優　桑島法子氏による宮沢賢治の童話「虔十公園林（けんじゅうこうえんりん）」の朗読、和太鼓パフォーマンス、復興の歩みの紹介映像、復興ソングの合唱等が行われました。

式典で天皇陛下は、「復興の象徴である奇跡の一本松が立つ、ここ高田松原津波復興祈念公園において皆さんと一緒に植樹できることを嬉しく思います。震災を乗り越えて全国植樹祭が開催されることは誠に意義深く、地域の人々のたゆみない努力と、大会関係者の尽力に敬意を表します。森林を守り、育て、次の世代につなげていく活動が岩手の地から全国へ、そして未来に向けて大きく広がっていくことを願います。」などとおことばを述べられました。

表彰では、岩手県緑化関係部門で、当組合前顧問の下山裕司氏らが表彰を受けました。

その後、天皇皇后両陛下が、奇跡の一本松の遺伝子を引き継いだ南部アカマツ、北上山地に分布する絶滅危惧種ハナヒョウタンボク等のお手植え・お手播きをされました。その際に使用する鍬や盆には、県産材や県を代表する木工品が使われました。

岩手県の森林・林業の新しい取組みについて紹介するコーナーでは、株式会社小友木材店様が、花巻おもちゃ美術館やＩＴの活用等について、株式会社柴田産業様が、「持続可能な林業の取組みについて」を紹介しました。

【おもてなし広場】

おもてなし広場は、全国植樹祭の招待者への「おもてなし」を行うため、岩手県の森林・林業や観光などに関する展示ＰＲ、震災復興の情報発信などを行うものです。

その広場内に展示ブースが設置され、ノースジャパン素流協からも、「いわての木を利用した取り組み」として「見て」、「触って」、「感じて」をテーマに出展しました。

展示では、①持続可能な森林経営の実現、②国産材の安定供給、③物流対象の多様化、④人工林の森林資源サイクルの構築、⑤組合員の知識・技術の向上と後継者の育成、⑥東北の集成材、合板の特徴を紹介しました。

岩手県産材（スギ、カラマツ、アカマツ）を使った針葉樹構造用合板を利用して、資料展示だけではなく、合板材の美しさも見てもらえるよう設置しました。また、「こんなところにも いわての木!!」として、岩手県産材を利用した製品を展示した。展示は、岩手県産材（スギ・アカマツ・カラマツ）を使った構造用集成材や構造用単板積層（ＬＶＬ）材、アカマツを使った青森津軽のリンゴ箱、また、岩手と言ったら広葉樹！ピザ窯用ナラ薪（尺６・尺２）、燻製用チップ（ヤマザクラ、クルミ、ブナ、ナラ、リンゴ）、子供たちに人気の木製おもちゃ、木質バイオマス発電所の熱利用栽培（キクラゲ・加工品）などを展示しました。

全国各地からご来場者の方に製品を見て、触っていただき大盛況の中に岩手の林業を紹介することができました。

県産材をＰＲ！出展にご協力いただいた皆様、ありがとうございました

この度、ボランティアにご協力いただいた組合員の皆様、「おもてなし広場」出展にご協力いただいた企業の皆様に改めて御礼申し上げます。

トピックス

令和５年度　岩手県森林再生機構植樹祭が開催されました

６月17日、令和５年度岩手県森林再生機構の植樹祭が、紫波町上松本において、森林所有者など参加者44名により開催された。

主催者として、中崎和久同機構理事長（岩手県森林組合連合会会長）より、「成功裏に開催された令和５年度全国植樹祭ともに今日は晴天に恵まれた。これは次世代に森林を残そうという思いが通じたものである。岩手県森林再生機構への関心が深まるとともに、毎年再造林面積が増え

ており、助成方法の見直しの検討が必要となっている。コロナ後の経済を元に戻すと共に木材利用のバランスを取りつつ、次のステップへ進みたい」と参加者へのお礼に併せて挨拶があった。

続いて来賓７名を代表して、岩手県農林水産部　林務担当技監兼全国植樹祭推進室長　工藤亘様より、「岩手県森林再生機構は、平成29年の設立以来、再造林の支援・震災からの復興・木材の循環利用のメッセージの発信を続けている。今後も持続可能な林業のために更なる取り組みを進めていただくことを期待したい」と祝辞があった。

植樹施業は、盛岡広域森林組合東南事業所　鈴木淳所長の指導のもと、カラマツのコンテナ苗１５０本を植栽し、最後に岩手県森林再生機構の立看板を設置した。

当地は紫波三山のひとつである東根山の登山口にあり、前日までの雨天が嘘のように晴天となり、植樹中に登山客からコンテナ苗の質問を受けるなど注目度の高い場所での植樹祭となった。再造林の”木製”立看板は今後も登山客の目を惹くことでしょう。

皆様お疲れさまでした！

木製看板の前で記念撮影！

第51回全国林業後継者大会いわて２０２３
～つなげよう　豊かな森林を　次世代へ～

６月３日（土）、盛岡市民文化ホールにおいて、第51回全国林業後継者大会いわて２０２３が開催された。

この大会は、全国植樹祭関連行事として、豊かな森林を次世代へ継承するため、林業の担い手が果たす役割について意見を交わすとともに、森林・林業の重要性や林業の魅力を全国に発信することを目的に開催され、岩手県内の林業関係者による活動発表およびパネルディスカッションが行われた。

今大会では当組合青年部会が実行委員会の一員に加わっており、当日も運営スタッフとして参加した。また、登壇者としても当組合員から多く参加があった。

活動発表では、三田農林株式会社代表取締役社長／岩手林業株式会社代表取締役　三田林太郎　氏、釜石地方森林組合　理事兼参事　高橋幸男氏、横澤林業株式会社　専務取締役横澤孝志氏（ノースジャパン素材流通協同組合青年部会　会長）、株式会社柴田産業　代表取締役　柴田君也氏、岩手県林業技術センター　首席専門研究員　小澤洋一氏、有限会社フォレストサービス　則竹彩絵氏より、各事業体等における様々な取組みが発表された。

パネルディスカッションでは「次代を担う若者が意欲と希望をもって活躍できる魅力ある林業の確立に向けて」をテーマに、岩手大学　山本信次教授をコーディネーターに迎え、活動発表者との活発な意見交換が行われた。

閉会式典では、岩手林業アカデミー修了生である、山中林業　山中崇義氏、有限会社アイシンフォレスト　松倉彩歩氏による大会宣言が行われ、豊かな森林を次世代に繋いでいくことを力強く宣言し大会は幕を閉じた。

登壇者、青年部会の皆さんお疲れ様でした！

令和５年度第１回需給情報連絡協議会を開催

６月８日（木）、ＮＪ素流協が事務局を担当している、「国産材の安定供給体制の構築に向けた東北地区需給情報連絡協議会」の第１回協議会がＷＥＢで開催され、東北各県の構成員が出席し、熱心な意見交換が行われました。

また、６月15日（木）には、中央需給情報連絡協議会が開催され、各地区協議会からの状況報告と意見交換が行われました。

詳しい内容については改めてお伝えします。

ＮＪ素流協青年部会第５回通常総会を開催

ＮＪ素流協青年部会は、６月17日、第５回通常総会を盛岡市で開催し、会員26名が出席した。

開会にあたり、横澤孝志会長が「令和元年度の設立以来、新型コロナウイルス感染症の拡大により思うように活動ができない状況が続いたが、ようやく大勢で集まることができ嬉しく思う。慎重に活動してきた中でも、当青年部会主催の児童・生徒向け森林・林業普及啓発イベント『げんき森林（モリ）モリフェスティバル』を開催できたことは明るい話題で感慨深い。今年度、第３回の開催が決まっているので引き続きよろしくお願いしたい。また、その他の活動についても皆さんから忌憚のないご意見、アイデアをいただきたい。」と挨拶した。

議事では、令和４年度事業報告、令和５年度事業計画、青年部会規約変更について原案どおり承認された。

また、総会開催前には、８月６日に開催する『第３回げんき森林（モリ）モリフェスティバル』の事前説明会を行い、開催に向けて活発な意見交換が行われた。

「林道維持管理の取り組み協定」第２弾!!

東北地区原木トラック運送協議会と東北森林管理局において、令和４年４月に原木輸送に係る林道補修・林道維持管理の情報共有を目的に「林道維持管理の取組に関する協定書（敷鉄板の貸出）」を締結し、岩手県で試験的に実施していた。

協定書の内容は、国有林から丸太を運搬する際の問題であった林道補修の時間を如何に短縮するか？であった。林道崩壊の原因は、主に軟弱地をトラックが走行すると轍（わだち）が発生し、時間経過により轍の拡大が林道崩壊の要因となっていた。情報共有する事で、林道崩壊が見込まれる個所に敷鉄板を設置し、崩壊を未然に防ぐというもの。林道補修に掛かる時間・費用に比べ、敷鉄板の設置は短時間で対応可能であることから試験的に行っていた。その結果、林道補修に伴う林道待機が減少し、虫害が発生する時期は特に効果的に搬出が可能であった。

その成果を基に、令和５年５月に東北森林管理局より「貸出物品承認書」が発行され、米代東部森林管理署扇田森林事務所において敷鉄板の引き渡しが行われた。

お知らせ

いわて林業アカデミーでオープンキャンパス開催!!

いわて林業アカデミーで、令和６年度研修生の募集に向けて、入校を希望又は検討している高校生、その保護者、学校関係者、林業就業希望者等を対象にオープンキャンパスが開催されます。

【開催日時】
令和５年７月27日（木）、28日（金）
両日とも10：30～15：00
※それぞれ先着20名、事前申込制。

【開催場所】
岩手県林業技術センター（矢巾町）

【開催内容】
アカデミーの紹介、施設見学等

詳しくは左記ホームページへ。

岩手県
林業技術センター
https://www2.pref.iwate.jp/~hp1017/

ちょっと気になる木の話 84

脱炭素社会に向けて

ー本当の意味での農林水産省、農林水産部の確立ー

脱炭素社会に向けて、非住宅分野を含めて、森林のＣＯ２吸収、建築物等のＣ固定の認識が深まり、ゼネコン・銀行等日本の経済界の取組み方向が明確とニュースになっている。特に、林野庁、国土交通省、環境省と緊密に連携が始まっている感じである。

しかし、こうした取組みには、農林水産省の窓口名は林野庁である。都道府県庁の取組みの窓口名は林務担当部局である。農業分野、水産業分野は関係ないのだろうか？

農業の話題といえば、米・野菜・果物、畜産物のブランド化、輸出・消費拡大、農業用資材の価格高騰対策、農業用水の安定的確保、災害の復旧、機械化推進、担い手の確保であろう。

農業分野での木材利用の話題は、ほとんど無いと言える。一部、畜舎の木造化は進んできているが、他はあまり聞かない。林業・木材産業側も、住宅・非住宅の木造化・木質化が最大のマーケットであり、最大の取組み先であり、こちらに関心が集中している。

そこで、具体的に農業分野をみてみると、ＪＡの建物に入ってもほぼ木造は無く、内装・事務机等オフィスには木質感は全くない。農産物を集荷する箱はプラスチックで、道の駅の野菜売り場もプラスチックの箱・棚である。農業用資材として販売している野菜の支柱、ビニールハウス等広く眺めて見ても、鉄とプラスチックの「塊まり」である。これには、地元材利用ではなく、全国で窓口を一本化して、同じものを届けるという農協全体の流れが確立しているからだと思えてならない。また、行政としても、この分野にあまり関わる必要性は無いとの感じである。

水産業についても、魚箱は発泡スチロールが多く、建物もスパン飛ばしの建物が多く、Ｓ造がほとんどであることは当たり前である。

農水産業の資材の地産地消は全く進んでいないといえる。

今でも関係が深いのは、ハム・かつお節の燻製用チップ、畜舎の敷ワラ代替チップ、木質ボイラー用薪・チップ、養殖用イカダの竹・丸太利用等はあるが、本体であるＡ材・Ｂ材の木材利用はほとんどないと言える。

農林水産省の人事交流でも、環境省環境部局、国交省住宅部局は、長年続いているが、農業水産業分野の技術的本体の部局とは人事交流はない。

都道府県庁も、環境部局に続いて、建築部局の交流もあちこちで始まっていると聞いているが、農業水産業分野の技術系本体の部局との人事交流はないかな～。

もちろん、農業水産業分野でも、国・都道府県単位の補助事業はある。本当に真剣に木造化・木質化が検討されているのだろうか？農業用水産業用資材の木材利用は検討されているのだろうか？農林水産省からの明確なメッセージが先ともいえるが…。

農山村の市町村長は、少子高齢化対策で人口の減少をくいとめる地元産業の育成が急務である。農協の理事と森林組合の理事も兼ねている人もかなりいるはずである。こうした人が農協の理事会でも木材利用の発言をしてくれることが望まれる。

また、途中に戻って、本体である林業・木材産業関係者も、木材需要の最大の指標である新設住宅着工戸数、非住宅建築物の木造率だけでなく、この分野にも関心を持つ必要があると思えてならない。製材、素材生産業者であっても、地元にいれば、近所、親戚、学校の同級生等の林業・水産業関係者は数多くいるはずである。

脱炭素社会のキーである木材利用分野をターゲットにして、「農」・「林」・「水」産省から「農林水産省」へ、「農」・「林」・「水」産部から「農林水産部」への進化が必要である。

令和５年６月分の販売実績

樹　種	合板・ＬＶＬ用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量(㎥)	前月比(%)	前年同月比(%)	当月出荷量(㎥)	前月比(%)	前年同月比(%)	当月出荷量(㎥)	前月比(%)	前年同月比(%)
ス　ギ	12,830	125.7	80.9	7,761	86.7	80.9	20,591	107.4	80.9
カラマツ	4,388	98.3	125.4	329	1,802.1	8.4	4,717	105.3	63.6
アカマツ	2,264	175.7	118.5	0	＊	0.0	2,264	175.7	105.7
その他	0	＊	0.0	145	76.0	47.5	145	76.0	46.4
合　計	19,482	122.1	91.6	8,235	89.9	58.6	27,716	110.3	78.5

樹　種	燃　料　用		
	当月出荷量(ｔ)	前月比(%)	前年同月比(%)
ス　ギ	5,265	122.1	103.9
カラマツ	3,167	96.4	127.8
アカマツ	2,138	61.3	176.1
その他	55	52.5	94.3
合　計	10,625	95.0	120.5

注)＊印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

樹　種	今年度累計			
	合板・ＬＶＬ用(㎥)	製材・集成材・その他用(㎥)	計(㎥)	燃料用(ｔ)
ス　ギ	33,594	23,893	57,487	14,194
カラマツ	12,153	452	12,605	9,771
アカマツ	5,012	15	5,028	8,600
その他	0	498	498	172
合　計	50,760	24,858	75,617	32,736
目標達成率(%)	21.1	14.2	18.2	24.2
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

【令和５年６月の需給動向】

●一部の工場で、虫害になる前のスギ材や青変菌が入る前のアカマツ材を急遽手当する工場もあった。気温が上昇する今後の時期は、虫害や青変菌に注意した納入が必要。

●合板製品も段階的に値下げに転じており、原木価格も同様に値下げとなる。

耳からウロコ

ＪＲと木材
― 我々？の努力不足 ―

公共建築物等木材利用法を制定して、鉄道・高速道関連施設もその対象とした頃から、ＪＲへの木材利用の働きかけを実行してきた。

最初に、枕木（マクラギ）は、ポイント切替、橋梁上には、木が使われてきた。クリ、ケヤキ、ヒバ等である。ＪＲ東日本は、こうした国産材を使用して頂いていた。話しているうちに、ＪＲ〇日本は今だに南洋材だというので、国産材転換の働きかけを行ったら、回答は、「ＪＲ東日本と同じ事はできません。」でした。国鉄分割民営化の影響？

次に、ＪＲ貨物のコンテナの内側に張られている薄物合板が南洋材であることを知り、国産材合板利用を働きかけた。実は、コンテナの大きさは、かつての薪炭輸送の最大効率化で決められていると知った。「よし、ここだ！」と意気込んだが、国産材合板は、当時、構造用合板に製造へのニーズが片寄っており、薄物が不得意だった。結果、恐らく現在も国産材合板は使われていないかな～。

最後に、長野駅舎木造利用事案である。長野駅改装計画を知り、加えて長野駅長が技術系と知り、「これは理解してくれるかも」と思い、会いに行った。しかし、長野駅の営繕については高崎駅が担当するので具体的権限が無いと言う。そこで、県庁・県木連等に頼んで、高崎駅営繕担当に陳情に行ってもらった。そこでの発言は、「ここに来る前、新青森駅建設の時、木材利用が叶わなかった。リベンジしましょう！」で、報告を受けた。(新青森駅のおかげ？)

ここで、同時に駅前のバスターミナルも改造だったので、長野市長に陳情に行った。長野市長は、建材問屋経営もあり、応援してくれることとなったが、仮囲いを国産ボードの件では、「火を付けられて燃えたら責任はだれがとるか？」で躊躇した。木造建築の代表の善光寺のある善光寺口なのでと頼んだ。結果、利用されたが、いつの間にか市長の発案となっていたが、逆に嬉しい出来事だった。

最近は、ごく普通に駅舎の木造利用が進んでいるのは、良い傾向である。民営化前は、国営企業は３公社５現業と言われた。国有林野事業は５現業の一つであるが、国鉄、電電、郵政も仲間である。ＪＲ、ＮＴＴ、ＪＰの木造化・木質化にも期待したい。

ということで、ＪＲの木材利用については「我々？」の更なる努力不足かも知れない。